

SUGAR
BOX

Number::01

HXE
HAWKS
ENDEAVOR

Unofficial fanbook

R18





ATTENTION

※個性なしの転生パロ

公安警察の鷹見啓悟がゲイバーで
おっさんの轟炎司と出会うお話

※注意：血&♡喘ぎ

この本は実際する団体、地域とは何の関係もありません。

これは何処にでもある
ごく普通の現実



家は貧乏で
家族にも荷物だった俺は



息子さんは
天才的な才能を持っています

息子さん我々
お預けて頂ければ

ご家族の皆さんの
経済的問題を
解決して上げます

売られるように
一人になった



奇跡など存在しなかった

ニユッ







なんだ、
息子探し？

オッサンだ…



さーせん



何を
聞いている



ここは「相手」を探す
店だろう

ああ、確かに



見ない顔ですね

何の用で来たか
聞きたいんですが





何だろ、この妙な気分は

この行為に意味などないはず

ただ
汚れた自分と

日々重ねてゆく罪悪感と

現実から逃げるための

夢中になれるものを探す事に過ぎないのに



めちゃくちゃ
良かった



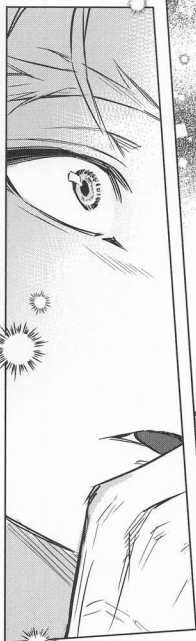
風呂場の前に
落ちてたぞ

取ってくれて
ありがとう
ございませう





…ほら



ああ、俺は

逃げ場を
探してたんじゃない

おい、
煙草落ちたぞ

いいんです
いいんです

吸わないのか

それより

もう一回
してもいいですか？

俺は
自分を照らす

太陽を探してんだ

決まってるじゃないですか
セックスですよーセックス

何を？



やつても
いいですよね？



…勝手にしろ

なんて変わった奴だ



許して？



俺はついさっきシャワー
浴びてきたのだが

もったいシャワーすれば
いいじゃないですか

俺が背中
流しますよ





誘うのも
天才的な才能が
ありますね

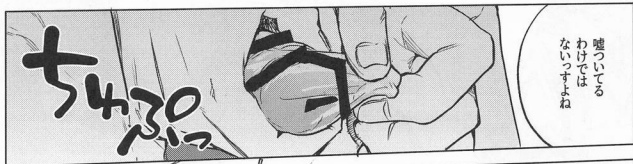
…天然おじさん♡



まったく

今の言葉で
完結しました

何故だ?!



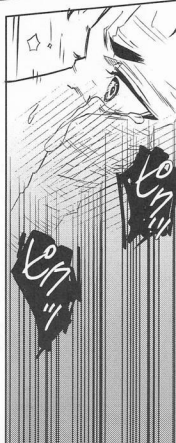
嘘ついてる
わけでは
ないですよ

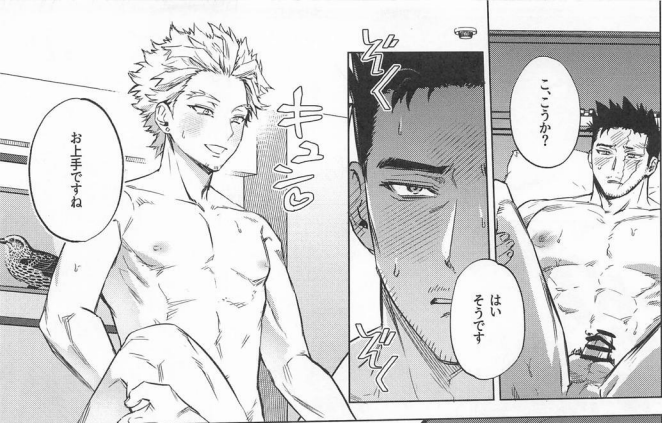


まあ、

こんなに締める
アナルなら
本当でしょうケド

リチャッ









あなたの奥あつくて
俺もきもちいです

はっ

他の人より
体温高いですよ？

きつそうです

はあ



ねえ、

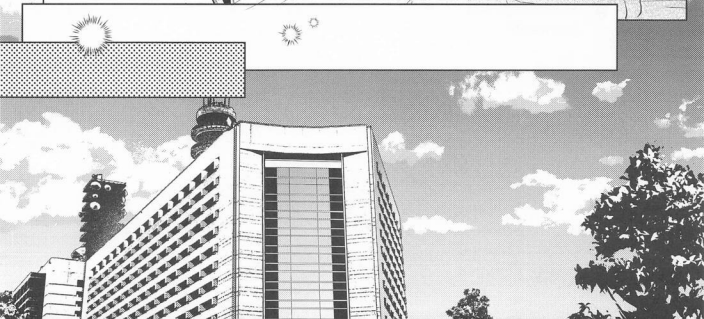


はい



こんなに
体の相性合うなんて







今回も
派手にやらかして
くれましたね

ハイハイ



しかし
仕事の処理を早く
してくれたおかげで
テロ状況は
防げたようです



にやへ♡



はあゝ

—あの人

朝、目が覚めたら
既にいなくなっていたな…

そもそも
一夜の相手だったから
仕方ないか

その気になれば
探すのは
出来るけど

やっぱり
名前だけでも
聞いておけば
よかったー!!

誰にでも言える
正しい仕事をしてる
わけでもないから



離せーッ!!

離せません!!

貴様まさか
ストーカーか!!

違います!!
俺一応
警察なんすよ!!

お前が警察だと!?

なんすか
失礼な言い方!!

がしっ

いやそんなの
もうどうでもいい

俺、起きた時
あなたが
いなくて
寂しかったです

もう一度
会いたかった



お名前、

教えてくださいませんか…？

だから宜しければ

炎司さあ〜ん！



…啓悟

いいじゃないですか
みんな帰ったし

てか



一緒にメシ
行きましょう、
メシ！

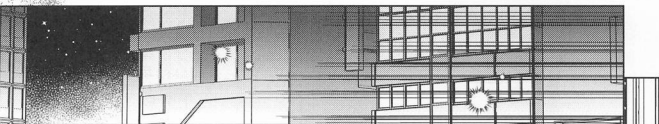
個室つきの
やきとり屋さんとか



にっ
炎司さんも
これから
帰宅ですよ？

上着を
取ってくる

わーい！

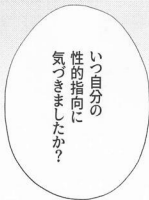


タバコはもう
吸わないのか

吸わなくなつて
1年すぎたんです
けど今更!?

だから
今更だと言った

今更なんだが





考えてみたら
好きな男がいた

気がした

気がしたって？

顔もよく
覚えてないから
かなり昔の
ことだと思うが



人の事に首を
突っ込むのが
好きな

自分勝手に
自由な、



赤が似合う
ある男のことを

なんつー覚え方ですか

それとこの世で
赤が一番似合うのは
炎司さんですよ？





もしかして
まだ忘れてないと
じゃないでしょう？

…ああ

忘れることは
出来ないだろう



俺がおるのに?!

五月蝋い!!

おいてる



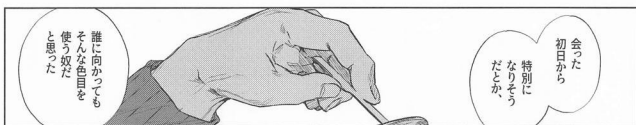
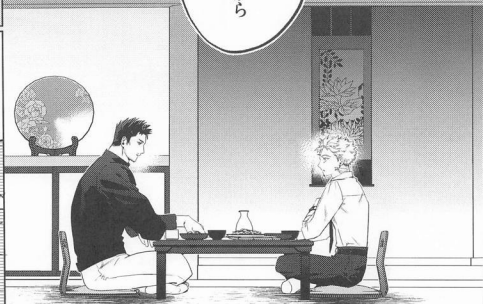
でもあえて
探す必要はない

お前の言う通り





今はお前がいるから



会った
初日から
特別に
なりそう
だとか、

誰に向かっても
そんな色目
を使う奴だ
と思った



だが、
お前は未だに
俺のそばにいる



お、
覚えてたんすか!?

当たり前だろ

恥ッ!!



今、目の前の
お前の方が特別だ



あの日
お前が言ったことを
今は信じてる

だから、
記憶の中の誰かより



あ
もう



はああ



そういう
ところですよー!!

記憶の中の男も
絶対その天然力で
誘惑したんでしょう!?

座れ

てんやわらん
つなだ



本当に
良かった

あなたは、



炎司さんと
出会ったのが
俺で

俺の物語が

運命だったかも
知りませんね

やっぱり俺たち

普通のハッピーエンドを
向けるようにしてくれる

特別な人
ヒーロー

もうポケットの中の
ライターを探す必要はない

ねえ、
炎司さん

また今更の
質問か

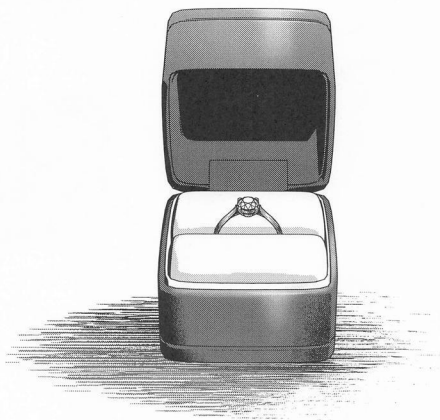
違います！
大事な質問ですよ

やっぱりもう一個
聞きたいことがあります

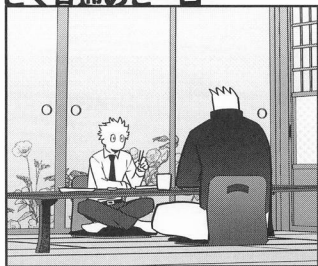
ここにはすでに

何処にでもあるような
ごく普通のラブストーリー

好きですか？



ごく普通のヒーロー





2025.02.09

Anik | Sugarbox

twitter : @ango_iksa

email : mc.sugarbox@gmail.com

出版社 : ラック出版

※ 無断転載禁止 // Unauthorized post and reproduction is prohibited.
※ AI学習禁止 // AI learning prohibited.

An illustration of a young boy with spiky, light-colored hair, seen from behind. He is wearing a light-colored long-sleeved shirt and pants, standing on a dark, jagged rock. The background is a chaotic scene of destruction, with a large pile of broken wooden planks and debris at the top. To the left, a large, tied sack sits on the ground. The ground is a mix of orange and yellow, with several bright, starburst-like light effects. The overall style is that of a manga or anime cover.

TAKAMI KEIGO
—
TODOROKI ENJI

2025 - 02 - 09

Present by sugarbox